

## 平成25年度第1回千葉市史編さん会議議事録

- 1 日 時：平成25年7月30日（火） 午後1時30分～3時10分
- 2 場 所：郷土博物館講座室
- 3 出席者：（委員）吉田会長、野村副会長、白井委員、本郷委員、今井委員  
（千葉市史編集委員会代表）三浦茂一委員長  
（事務局）  
原生涯学習部長、横田文化財保護室長、湯浅郷土博物館長、田中副館長、  
芦田主査、麻生、大関（囑託）

### 4 議 題

- （1）平成25年度事業予定（案）について
- （2）今後の事業予定（案）について
- （3）その他

### 5 議事の概要

- （1）平成25年度事業予定（案）について

平成25年度に予定されている事業について、史料調査・収集・整理事業（『史料編近現代』関係調査を含む）、市史等の刊行事業（『千葉いまむかし』27号・ニューズレター）、編さん普及事業（千葉市史研究講座・古文書講座）、市史研究事業（市史研究会など）、市史協力員（ボランティア）の活動、その他の項目について説明し、承認された。

- （2）今後の事業予定（案）について

来年度の講座などについて説明し、方向性を定めた。

- （3）その他

### 6 会議経過

#### 〔開会〕

午後1時30分、委員5人中5人着席。

司会（田中副館長）より、資料確認。その後、司会より設置条例第5条第2項の規定により、この会議の成立が告げられ開会。

吉田会長の挨拶に続いて、会長が議長となり議事に入った。

### 議題1 平成25年度事業予定（案）について

平成25年度に予定されている事業について芦田主査が説明。

#### 【質疑応答】

吉田会長：史料調査・収集・整理・保管についてご意見は。

吉田会長：三枝家文書、既調査分が見当たらないというのは、理由は。撮影はしているのか。

事務局（芦田）：撮影はしている。

今井委員：三枝家文書は、昭和56年の調査時に、所蔵者から借金証文関係は撮影してほしくないという申し出があり、この分については撮影していない。これらも含めて整理し史料編に収録した分が見当たらない。収録対象の村に係る史料、上総奉公などは全てマイクロフィルムで撮影してある。なお、三枝家の家屋は既に解体した。

吉田会長：三枝家は寄託史料のリストの三枝家（NO.43）なのか。

事務局（芦田）：三枝家 NO. 43 である。

野村委員：市史寄託史料は一年でこれだけ収集したのか。ずっと昔からか。

事務局（芦田）：この事業が始まって以来、寄託・寄贈・移管された史料の一覧である。

野村委員：以前、保管する場所がなく困っていたがどうなのか。年間に集まるのは資料の 1 ページに記載されている位なのか。

事務局（芦田）：これは、本年度の 4 月から 7 月に収集したものである。相手の意向があるので、年によって収集する量には差がでる。

野村委員：保管場所についてはどう考えているのか。

事務局（湯浅）：収蔵庫については、整理して史料の保管場所の確保に努めている。収蔵庫のスペースがこれ以上増えることはないので、写真パネルなどの収蔵スペースを、史料の収蔵スペースにしていきたい。また、収蔵庫の空調については、不調の時期を無くすため修繕を行う。併せて、収蔵庫の老朽化した排水管の修繕も実施する。

野村委員：収蔵庫の老朽化が進んでいるということか。

事務局（湯浅）：本館は昭和 42 年に建築され、平成 13 年に免震化工事を実施した。また、収蔵庫棟は昭和 58 年に建築され、本年度、収蔵庫棟のエレベーターの改修に係る実施設計を行い、予算が計上されれば、来年度改修工事を行う。

吉田委員：史料寄託・寄贈のリストに、マイクロフィルム有・無、紙焼きプリントの有・無、史料編の何巻に収録なのか、目録は手書きか、PC に入力されているのか、そういうデータを是非追加してもらいたい。現状では完全には閲覧公開できない、供していない訳だが、こういう情報は市民にも研究者にも大事な情報なので、公開すべきと思う。この情報は市史編さん事業にとって大事な財産なので、公開する方向で考えられないか。

白井委員：私もそう思う。この中で『史料編 9』までの史料集に収録されているものはどの位か。

事務局（芦田）：正確な数字は分からないが 1 割に届くかどうかである。

白井委員：そうすると、市民は寄託されている史料を、ほとんど見ることができないのではないか。

事務局（芦田）：研究のため閲覧にやって来る方には対応している。

白井委員：研究のためならば閲覧は可能なのか。

事務局（芦田）：可能である。

吉田委員：積極的に公開している訳ではないと思うが。

事務局（芦田）：近世に関しては史料編に目録を掲載している。目録を見て史料を閲覧したいという方が来れば対応する。

白井委員：今後の予定の中に簡易製本の史料集の発行があるが、平成 16 年の『史料編 9』以降に調査・収集された史料を簡易製本の史料集にするとか、近代編の刊行で困難とは思いますが、いずれは簡易製本の史料集として発行する予定・計画はあるのか。

事務局（芦田）：『史料編 9』以降に収集された史料はかなりある。史料編に収録できなかった史料も多く、簡易製本の史料集にそれらを掲載するという方針はある。但し、その前に刊行すべき近現代の史料集の編さんが進んでいないのが現状である。

白井委員：そうすると、現状では史料編に収録された 1 割程度の史料しか市民は見る事が出来ないのか。

事務局（芦田）：収録された史料にプラスして、史料編には目録が掲載されている。目録を見て必要であれば当館に来ていただいて、閲覧してほしいということである。

吉田会長：議題 1－2 『史料編 近現代』関係調査ほかについてご意見は。

吉田会長：近現代編の作業については、資料の 2 の部分に掲載されていること以外は、動きが無いということか。

事務局（芦田）：議題 1－1 の調査・収集・整理・保管の中で、近現代の史料編に係る史料も収集しているが、2 の項目に記していない。

吉田会長：編集委員会は年一回か。

三浦委員長：今年度はまだ未開催である。個別に編集委員が市史編さん担当を訪ね、研究的なレベルで史料を見せてもらうということはあると思うが。

吉田会長：古文書講座、非常に重要だと改めて思っているが、内容を教えてもらいたい。テーマは初級・中級同じ。初級と中級、違いは何か。

事務局（芦田）：基本的には市史で整理済みの古文書から、初級は本当に簡単な一枚物の行数が少ない古文書を使用して、名前の読み方から始めて、一文字一文字、古文書の読み方を丁寧に講義する。中級は初級に比べ読むのが難しい古文書を使用し、文字がどうしてこう崩れ、どう読むかということを中心に、若干古文書の内容についても触れる。

吉田会長：最近はどうな古文書をテキストに使用しているのか。

事務局（大関）：川口家を多く使用する。

白井委員：今までは毎年、前期と後期に分けて実施し、沢山応募してきても抽選に外れるという方が多かったと思うが、今年は同じ日に午前と午後の 2 回実施で実施するが、応募状況はどうか。

事務局（湯浅）：午前の申し込みが 66 人。午後の申し込みが 32 人。午前で抽選に外れた方 26 人から再抽選で 8 人午後に戻っていただいたので、18 人の方が受講できなかった。例年よりは受講できない方の数が少ない。

吉田会長：研究講座についてはどうか。比較的最近、千葉市民文化大学で講演を行った。ここでも千葉市に係るかなり充実したレクチャーが行われていて、教育振興財団でも来年度から連続講座を実施しようとしている。ことぶき大学でも実施しようとしている。公民館でも行っている。非常に重複感があるし、どこにいけば統一的な情報が得られるか分からない。市史研究講座は、千葉市史の調査や編さんに係るテーマに特化すべきという気がする。古墳などは市史編さん事業で行っている訳ではないし、正岡子規など千葉市に係るテーマは面白いとは思いますが、こうまで幅広く市史研究講座がカバーする必要があるのかという疑問がある。市民から批判・疑問はないのか。

白井委員：市民の立場から言うと私もそれを感じて、市史編さんで集められた史料の中からどんなことが分かるのか、寄託・寄贈された史料を紹介する形で市史研究講座を実施できれば、市史編さん事業が市民にもどんなことをやっているのか周知できると思う。色々なところで色々な講座を実施していて、参加者は年配の人が多く見受けられるが、市史編さんの過程で集められた史料を元にして最新の情報を提供していくとか、そういう特化したものがあれば、市史編さん事業も市民に広まっていくと思う。

吉田会長：市史研究講座は無料なのか。

事務局（湯浅）：無料である。

吉田会長：そこが市民のメリットなのか。

本郷委員：他は取っているのか。

吉田会長：千葉市民文化大学は結構高い参加費だ。カルチャーセンターよりは安い。1 コー

ス 8,000 円位だった。これはお金とれないのか。

事務局（湯浅）：無料が原則である。

事務局（原）取っているのはテキスト代程度の実費負担分。行政が行う講座では通常取らない。

本郷委員：市史研究講座は結構人数が集まる。近現代編の編さんをアピールしても良いと思う。

必ず 15 分位アピールする場を設けるとか。内容も編さんにリンクした物が実施できればよいと思うが。

吉田会長：研究会・ボランティアの件などどうか。なければ議題 2 に移りたい。

## 議題 2 今後の事業予定（案）について

事務局（芦田）：平成 26 年度（来年度）の講座について、この資料には従来から実施している 3 講座を記した。前回の会議で、講座の内容や講師を決める前に、当会議で検討すべきとのご指摘があった。

来年度の講座はまだ白紙状態なので、今回、この会議で、講座内容・依頼すべき講師についてご意見をいただきたい。また、参考として、平成 20～24 年度の講座の実施状況について資料を配布したのでご参照いただきたい。

今日、この会議で、ある程度の方向性や、講座の計画を立てられればよいが、時間も限られており、この場で講師の人選が難しいのであれば、8 月中に事務局まで E メール・FAX など具体的なご意見をいただきたい。

事務局では、委員からいただいた意見を基にして、講師候補の先生に打診や調整を行い、来年度の講座の計画案を立てたい。

立てた計画案を、委員にお伝えし、その計画案に基づいて 9 月から平成 26 年度予算の編成を行い、最終的には来年 2～3 月の第 1 回市議会です予算案が了承されて、計画が決定することになる。ご了解をいただきたい。

なお、平成 26 年度の市史研究講座に、事務局では市議会でも取り上げられ、市民も関心の高い「千葉氏の館の位置」に関する講座を一つ実施したいと考えている。なお、講師については未定である。これについては、後ほど議題 3 で説明したいが、こうした内容の講座を実施することについて、ご意見をいただきたい。

また、講座の回数について前回の会議で見直すべきとのご意見もあったが、これについてもご意見をいただきたい。

事務局では、市史研究講座は多くの市民が参加する人気の講座であり、原始古代から近現代までの内容を揃えた歴史講座は、市内では他に行われていないので、回数は現状維持が望ましいと考えている。

また、市史研究講座は最新の調査成果を必ずしも反映したものではないが、各時代の研究者に講師をお願いし、講師の方々は『千葉いまむかし』に、講座内容に基づく論文を載せるとことも多く、市の事業とリンクしていると考えている。

市史研究講座の回数は、会場（市民会館）を確保する必要もあるので、この会議である程度の方針をご提示いただきたい。

引き続き、今後の事業予定について芦田主査が説明。

### 【質疑応答】

吉田会長：刊行物の中で『歴史読本』について大関さんから現状を報告してほしい。

事務局（大関）：吉田委員の提案で崙書房にお願いして、『千葉いまむかし』に掲載している「紙上文書講座」に近い形で、資料一点を取り上げて、それについて解説をしていくもので、原稿を今執筆していただいている段階。もう少し原稿が集まれば構成を固めて、崙書房に話を持って行くことになる。

吉田会長：少しずつだが実現の方向で進んでいる。是非何とかと思っている。

講座について、市史研究講座を現在 6 コマ、半分に減らすか、4 コマにしたらどうか。人気の講座だから、千葉氏の館の問題とか、トピカルな問題を講演するのは 1 コマ位はあってもいいかなと思うが、基本は先ほど白井委員が発言したように、ここが収蔵している史料をベースにしたもの、あるいは近現代史の、進展は見られないが先生方は努力しているようなので、そういった先生方のレクチャーとか、我々が行っている江戸と千葉研究会の成果とかをベースにして、3~4 コマ位でいいのではないかと思う。

予算配分が私には見えない所があるので、古文書講座を強化して初級・中級 5 回を 10 回ずつにすべきではないかと思う。10 回ずつ行えば、前期 10 回、後期 10 回で大学の授業だと大体前期 13 回と言うのが 1 学期分だが、そこまではいかないが、平均すれば隔週位のペースで古文書講座を定期的に開くことができると思う。5 回で読めるようになるとは思えないので、こういう地道な講座こそ重点を置くべき。予算が潤沢にあれば研究講座を行い、古文書講座を行い、本当はゼミみたいなものを行ったらよいと思う。今作ろうとしている読本なんかをテキストにして、史料を読み解くようなゼミを小規模でもいいから行ったらよいと思う。一気にそこまで行かないから、古文書講座の拡充をする、その予算は研究講座の謝金を少しカットすればよいと考えた。

白井委員：今年の古文書講座の応募人数を見て、これでもまだ足りないというのは感じた。今までだと前期・後期なので同じ人が 2 度応募するということがあったと思うが、今年の方でも 18 人が落とされた。すごく古文書講座に対する要望は高いと思う。力を入れるべき。すごく熱心にやっている人達なので、テキスト代を実費負担してもらってもいいと思う。市史研究講座で市史で集めた史料を中心にと言ったが、市史研究講座の概要を見ると、千葉氏とかの講演の時に多くの人が集まっている。市民の希望を入れつつ講座を実施すると良いと思う。

野村委員：平成 21~22 年の講座だが、「鎌倉時代の千葉氏について」「房総酒井氏について」「戦国時代の千葉氏御一家」など多くの市民が参加している。こういうテーマは繰り返して実施しても良いと思う。

本郷委員：千葉氏についての講演は人が集まるということだが、同じテーマを繰り返すのではなく、寄託としてある史料とか、近現代の今後編さんしていくものについて、論議をしていくことが大事だと思う。そうしたことが古文書講座を充実することになると思う。人気のある千葉氏の話と、もう一つ史料関係のものを組み合わせる、構成の段階での工夫が大事。

吉田会長：千葉氏関係の古文書をテキストに、古文書入門的な事は出来ないか。

本郷委員：千葉に残っている、千葉ローカルでは分量がない。戦国時代になればあると思うが。

吉田会長：自治体で行っている古文書講座で、中世文書を扱っているというのはあまり聞いたことがない。

本郷委員：特別な荘園があるとか、でないとう書の分量を確保することは難しい。

今井委員：組み合わせと。近代だけで講座を組んでも人が集まらない。かつてもそういった話があり、今回も 10 月 5 日の近代で、9 月 28 日に取られるという気がする。

近代編を進めている中で、どれだけ何を知ってもらいたいのか、興味をもってもらえるテー

マかどうかを考えないと参加してもらえない。人気講座が人気講座でなくなるかもしれない。  
三浦委員長：近代の古文書、古文書講座で近代を中心にする。それは明治初期の御用留とかでやるのか。例えば政治家の書簡とかになるのか。

市史研究講座の加藤久太郎や有吉忠一は、有名人なので面白い講座と予想できる。加藤の書簡と、有吉の日記とか。有吉忠一はかなり史料があると思う。神奈川の知事も務めている。史料調査をして何回か古文書講座ができるかもしれない。但し、近世文書の方が古文書講座にはふさわしいと思う。

新聞の記事の索引、関連記事の抽出・入力が進んでいるので、グループにしていくと、何か面白い物があるかも知れない。小林委員の自転車の小論も話を広げると、講座のテーマになるかも知れない。

吉田会長：小林啓祐さんの小論は、平成 23 年度の市史研究講座の内容を文章にしたものか。

事務局（芦田）：今回新規に『千葉いまむかし』27号に書いていただく。

吉田会長：(来年度)市史研究講座で話してもらおうのは問題ない。

事務局（湯浅）：古文書講座の重要性。これを踏まえて市史研究講座の内容・回数の見直し、委員皆さんの意見を踏まえて、回数を減らした分を古文書講座の回数を増やす方向で平成 26 年度対応したい。古文書講座が何回増やせるか、はっきり申し上げられないが、少なくとも 6 回位になると思う。委員さんからの意見を頂いて、できれば今日、予算の対応もあるので、市史研究講座の回数だけでも決めていただきたい。

吉田会長：市史研究講座は 1 日 1 講座ではまずいのか。

事務局（湯浅）：できれば 1 日に 2 講座で、2 日行うのが好ましい。市民は遠方からも来るので、午後に二つの講座を実施して 1 日の内容を充実するのが良い。

吉田会長：千葉市民文化大学とか、カルチャーセンターの講座だと、だいたい 1 日 1 回だ。

平成 20 年度は一日 1 回だが。土曜日の午後 2 時間ずつ一回で済むのではないか。

事務局（湯浅）：講座の回数を、できるだけ増やしてもらいたいという市民の希望もある。

今井委員：平成 20 年度は会場が千葉市美術館で、市民会館ではない。

吉田会長：市史研究講座の講座を 1 回減らすと、古文書講座を何回増やせるのか。基本は講師の謝金か。

事務局（湯浅）：会場費もある。

吉田会長：できれば古文書講座を倍増して欲しい。6 回にする位ではなく少なくとも 8~10 回位にしてほしい。そして、残った予算で市史研究講座を何回実施できるかだ。

現在、初級（午前・午後）・中級講座の 3 講座をそれぞれ 5 回行っている。それを 3 講座とも 8 回にしてほしい。

事務局（芦田）：予算的には厳しい。

野村委員：提言だから検討してもらえばよい。役所は 10 回にしますと簡単には言えない。

本郷委員：中級の受講生は必ず初級から上がって来るのか。

事務局（湯浅）：そうでもない。

本郷委員：初級だけで辞めると言う人もいるのか。

事務局（湯浅）：いると思う。また、中級を何回か受けてみたいという人もいる。

事務局（芦田）：中級の方が倍率が低いので、初心者でいきなり中級と言う人も中にはいる。

本郷委員：初級から中級へと上がる人がもう少し居てもいいと思う。むしろ中級を受けたいという人が増えると良い。

吉田会長：3 つに講座を分けたらどうか。初級・中級・上級と。今の中級を上級にして、名前

の読みとか、数字位を読むのを初級にして、先生は若い方を中心にして。

今井委員：かつては、3回（年）まで受講ができるという風にしていただいていたと思う。今は全く制約なく応募者を抽選しているのか。前年5回のうち3回しか受講できなかったが、今年も受けたいという人も他の人と何の考慮もなく一緒に抽選なのか。

事務局（湯浅） そうである。

白井委員：参加する動機は。

事務局（芦田）：博物館で古文書を見て、読めるようになりたい。と言う人が多い。書をやっている人もいる。

白井委員：初級・中級・上級と行く人は、それを使ってもう少し何かやりたいとか、ゼミをやりたいとか、あるといいかなと思うが。そういう人はあまりいないのか。

事務局（芦田）：いるとは思いますが。少し前に古文書実習というのをやった。その卒業生を中心に結成したのが、今の古文書整理ボランティアである。但し、活動スペースの関係で、人を増やしていくのが難しいという問題がある。

吉田会長：3つに分けるのは別にして、分けるなら古文書講座を行う目的、到達目標をそれぞれの講師ごとに設定してみたらどうか。上級ならば御用留を皆で翻刻してその講師が解題を付けて『いまむかし』に載せる。そこには参加した人の名前が載り、一つの作品になる。あるいはボランティアの活動に参加できるとか、そういう級に応じた目標を定める。そして有機的に関連づける。初級から中級へ行く時に試験があっても良いと思う。千葉市古文書検定などと名付ければ、これはビジネスになる。

ともかく、市史研究講座と古文書講座の回数・内容については是非検討してもらいたい。できれば、素案の骨子を早めに委員の先生方に送ってもらいたい。それで、こういう講師がいるという、逆提案を我々がする。そういうプロセスを踏んだらどうか。

事務局（湯浅）：8月一杯位に来年度の講座等のテーマ・講師など提案をしていただき、事務局で調整する。市史研究講座の回数、古文書講座の回数も提案させていただきたい。

### 議題3 その他

#### 【質疑応答】

野村委員：事業として、文化振興財団と郷土博物館の関係はどうなっているのか。

事務局（湯浅）：文化振興財団は文化振興課の所管。事業内容は芸術・文化・音楽。

野村委員：市の美術館。所管はどこか。

事務局（湯浅）：文化振興課である。

野村委員：ここに来た時、火縄銃の実演のポスターがあった。入館料は60円ではなく100円位にしたらどうか。市民が集まって来るものを企画して、入場料を取って、国宝を載せた本を作るとか、稼げる事を考えても良いのではないか。

また、文化と歴史を守る応援団みたいなものを作って、特別会員からお金を集めるような、そういう団体を作るとか。千葉城とその周辺という案内を作って、市の予算状況では、歴史まで予算が回ってこないと思うので、独自に色々発想して、収入源を考えることが必要だ。

事務局（湯浅）：郷土博物館も事業で勝負していきたい。当館の入館者昨年度40,644人で前年度の30%増になった。市史刊行物の売り上げも9%増えた。

入館者増は、千葉市の歴史をもっと知りたい、あるいは、興味を持ってもらう市民の増加に直接つながると考えており、市民にとって歴史知識の幅が広がることは、市史にとっても

非常に重要なことと考えている。今年度もさらに他の文化施設や、文化振興財団・千葉市観光協会など諸団体との連携事業を充実させると共に、館のPRに努めていきたい。

野村委員：4万人も来館者があるので、ブックレット位売れるといい。

事務局（湯浅）数字は予算計上の際の要因になるので、入館者増になる事業を実施していきたい。

吉田会長：他に事務局からは。

事務局（湯浅）：千葉市議会において代表質疑があり、千葉氏の館の位置について問われた。「千葉氏の館があったのは現在の千葉地方裁判所のあたりであったというが、きちんとした見解が必要なのでは」という内容であるが、従来の郷土博物館周辺という見解が、郷土博物館周辺の発掘調査の結果などに基づき、大学教授や郷土史家などの研究者が、千葉地方裁判所周辺、中央区本町や市場町周辺などに立地していたのではないかという見解を発表している。現在、館の位置に関する新たな資料などは発見されていないが、今後、館の位置の検証は継続して行っていきたい。先ほど説明したように、研究講座においてこの問題を市民にも広く知ってもらうため、研究者による講座を一つ開催したいと考えている。

このことについて、委員からご意見をいただきたい。

吉田会長：何か意見は。どういう意図で、市議会で代表質疑があったのか。

事務局（湯浅）：議員は、館がここにあったと認識していたが、『千葉いまむかし』の記載で、認識を新たにして質問したという。

吉田会長：そういうものを調べるためにもっと市史に予算を付けろというなら分かるが、知りたいというのはどういうことか分からない。

吉田委員：今回は以上で終了したい。

田中副館長の進行で、原生涯学習部長の挨拶後、平成25年度第1回千葉市史編さん会議を終了する。

問合せ先

千葉市立郷土博物館 市史編さん担当

Tel 043-222-8231